

第 15 号

平成13年1月20日発行



REPORT

JAPAN SPORTING GOODS RETAILER

編集：日本スポーツ用品協同組合連合会

日本スポーツ用品協同組合連合会

発行：日本スポーツ用品協同組合連合会

ひろめようスポーツの意義 高めようJSRの活動 〈2001年スローガン〉 - 21世紀の明るい社会を目指して -



新世紀明けまして おめでとうございます。

J S R ・日本スポーツ用品協同組合連合会
理事長 辻本 昌孝

これからは「新世紀」の幕開けです。良い時代にいたしましょう。この新世紀を良い時代にするには、企業理念を見直し、利己的な行動を反省し、業界を良くするために積極的に行動をしてゆきましょう。小売も、卸も、メーカーも共に業界のことを考えなければいけないと思います。

「新世紀」は共に栄える世紀にしたいものであります。

私達は9月5日の岩手県盛岡における総会で次のスローガンを採択いたしました。

「ひろめようスポーツの意義
高めようJSRの活動」
21世紀の明るい社会を目指して

このスローガンを胸にして、頑張りたいと存じます。

新年に当たり、この一年に願うこと、事業計画そして目標などを述べてみたいと存じます。

①商売の形態の変化を読み取ろう

2002年より、義務教育において週休2日制の導入により、部活が廃止になり、地域総合型の

スポーツクラブ方式に変わろうとしております。もうすでに各地域でその動きは出て来ております。私達JSRの所属員はこの変化の中でどう関与するかを考えて、大型店のできないノウハウを身につけ、地域スポーツの組織づくりのオルガナイザーになれるよう模索致しましょう。

②大型店とファクトリーアウトレットの駆込み出店

出店規制の法改正に伴い、大型店の出店、ファクトリーアウトレットの出店が相次ぎ駆込み出店をいたしました。このように消費の冷え込んだ時に、かくも多くの大型店とF.O.が出店して、それらの大型小売店が皆採算をとって経営してゆけるのでしょうか。

大型店の出店の余波で零細店が廃業に追い込まれ、出店した大型店も経営が成り立たず、大型店は国から税金で応援をしてもらおうというような構図ではたまったものではありません。

メーカーにおかれましてもスキーの安売り競争の結果「スキーの商戦」が大型店の寡占化になってしまった事のかんがみ、「春物商戦」が

「スキーの商戦」の二の舞いにならないことを願いたいものであります。

③スポーツ振興くじ

今年の3月3日から、スポーツ振興くじtotoが始まります。

全運小連がJSRになるきっかけになったのは、「スポーツ振興くじ」totoでありました。そのtotoが昨年静岡県内でテスト販売が行われ、成功裏に終了できました。今回の静岡県に限定された2回のテスト販売で2億円、その23.3%がスポーツ振興に使われると仮定すると4600万円がスポーツ振興に使われるということになり、JSRもtotoによって、スポーツ振興に貢献できるということは大変すばらしいことだと期待しております。

④「POSレジ委員会」

IT委員会では見える経営をめざし、経営の改善をおこなう為に、中央会から活路開拓事業のための補助金を申請し頂くことが出来ました。POSレジ導入の為に調査研究ということで補助金を頂いたのですが、「POSレジ委員会」の3月までの年度の事業としてはほぼ完了して、報告書の印刷上がりを待つだけの段階になりました。

続いて来年度4月からの事業は、これまでの調査研究の結果を具体化して、POSレジの実証実験をする方向で実施をしたいということで委員会は情熱を持続させて頑張っておられます。

担当委員長の上田副理事長さんは途中入院されましたが、委員会の石田豊明さんが委員長代行、浜田（稲門）さんが委員長副代行を受けて頂き、無事ゴールに着けそうであります。

来年度は国家予算においても財政難の折、補助金が非常に狭き門になっておりますが最後まで努力をしてみたいと思っております。

小規模でも導入出来る安価なPOSレジの研究の完成を楽しみにして下さい。

⑤「環境問題」

環境問題は我が業界では縁が薄かったようですが、小関副理事長さんのドイツのミュンヘンにおける体験から、アイドリングストップを提唱され、今年は再度、アピールして頂き、アイドリングストップの意識調査などもして頂きたいと思っております。

⑥「JSE Cの事業」

私たちJSRの財政基盤は、会員の皆様の年会費ともう一つが国体、総体、全中からの特別賦課金でございます。昨年度は国体が富山県、総体が岐阜県、全中が九州でした。各県、ブロックで大変な成果を出して頂きましたことこの場を借りまして御礼申し上げます。本年は国体が宮城県、総体が熊本県、全中が中国地方であります。本年も宜しく願い申し上げます。

⑦「共同購買事業」のショッピングバッグの件

JSRも設立されて2年目になりましたが、協同組合連合会設立の時、必須事業として経済事業を義務づけられております。

初年度はショッピングバッグの事業を行いましたが、期日の余裕がなかったので、無理もお願いしまして、偏った形でご購入して頂きましたが、今年度は全都道府県参加型の事業にして頂きたいと思っております。

⑧「デビットカード・C-R E X」の件

メリット作りと思って扱った「デビットカード・C-R E X」も普及が今一步伸びませんでした。今年は、「C-R E X」に魅力をさらに付加して、普及させたいと思っております。「C-R E X」を使ってクレジットのV I S A、M A S T E Rの手数料を3.9%にするというのは如何でしょう。

色々なことを言い過ぎてしまいましたが、各副理事長さん初め、各理事さんと共にJSRを魅力ある組合にする為に頑張りますので宜しく願い申し上げます。

第三回理事会報告

日 時 平成12年10月25日(水)
12:20~16:30

場 所 東京スポーツ会館4階会議室

出席者 安部顧問、辻本理事長、谷副理事長、小
関副理事長、渡邊専務理事
高野理事、服部理事、竹原理事、野中理
事、門田理事、岩満理事

順不同、10名出席

* 審議事項

第一号議案 出資実行の件

岩手総会の全国理事長会議で決定した通りに、
全運小連の財産を47県に分配した金額264,256円
のうち20万円をJSRの出資金として12月末までに
処理することを承認された。

第二号議案 事務局員採用の件

事務量の増加と週5日体制の為、1名増員する
ことを承認された。

第三号議案 全国大会 反省と決算承認の件

資料の通り承認された。

第四号議案 4つの委員会の役割と担当者決定の 件

下記の通り決定した。(敬称略)

事業委員会	JSEC 共同購買 会員増強 スポーツ振興くじ デビットカード	谷	岩満 野中 門田
広報委員会	広報 環境 国際	小関	竹原 小島
IT委員会	e-ビジネス POS委員会	上田	町田 高野
総務委員会	総務 公正取引 スポーツ券	石井	服部 渡邊

第五号議案 携帯電話の件

原案通り承認された。

* 報告事項

①事業委員会

JSEC関係として九州全中、岐阜インターハ
イ、明日からの富山国体について谷委員長より
報告があり、辻本理事長と二人で国体を視察

②広報委員会

第14号JSRレポート、4つの委員会活動など記
事内容の充実、環境、国際について小関委員長
より報告

③IT委員会

サッカーくじの現状と、POSレジ委員会の進
行状況を、上田委員長が病気のため代わって辻
本理事長より報告

④総務委員会

石井委員長が欠席のため代わって渡邊専務理
事より賦課金の入金状況、この後のJSECとの
打ち合せを報告

⑤スポーツ厚生年金基金

羽田野スポーツ厚生年金基金理事長と大岩事
務局長から説明があった。

⑥プロ野球OBの講習会

辻本理事長より二ヶ所で中止と報告があり

⑦九州ブロックでの展示会開催

辻本理事長より検討中との報告

⑧総合型地域スポーツクラブについて

日本マスターズとあわせて岩満理事より報告
売店業務など研究中

⑨服部理事より岐阜高校総体の報告

* 協議事項

A e-ビジネスについて

B POSレジ委員会実証実験について

C サッカーくじについて

D ブロック総会のあり方について

AからDについて いろいろと活発な意見が出
され協議した。

第四回理事会報告

日 時 平成12年12月7日(木)

12:30~16:30

場 所 東京スポーツ会館4階会議室

出席者 安部顧問、辻本理事長、小関副理事長、
石井副理事長、渡邊専務理事
町田理事、服部理事、竹原理事、門田理
事、岩満理事 順不同、9名出席

*報告事項

①予算執行状況について

資料をもとに渡邊専務理事より報告

②totoテスト販売とtoto販売店について

資料をもとに辻本理事長より報告

③九州ブロック協議会総会(11/9.10)について

岩満理事より報告

④近畿ブロック協議会総会(11/14)について

辻本理事長より報告

⑤第2回全国アマチュア野球指導者講習会につ いて

1/20中国 3/10信越を中止なったとの事を日
本プロ野球OBクラブ事務局より連絡を報告

⑥新年賀詞交換会と業界スケジュールについて

渡邊専務理事より報告

⑦大型店出店攻勢とファクトリーアウトレット について

辻本理事長より報告

⑧高野連 11/28 田名部事務局長との対話に ついて

辻本理事長より報告

*審議事項

1 ベースボールカードの件

*協議事項

1) デビットカード C-REXの手数料の件に
ついて

2) POSレジ実証実験の件について

3) e-ビジネスの件について

以上についても、各理事より活発な意見が出た。

(議事録作成：渡邊専務理事)

老後の生活を豊かにするために 厚生年金基金へ加入しましょう！

日本スポーツ用品厚生年金基金

理事長 羽田野 隆 司

J S R 会員の皆様、平素は格別のご協力を賜り、
厚くお礼申し上げます。

J S R 本部のご厚意によりまして、当業界の機関
が運営致します厚生年金基金につきましてご案内を
させていただきます。

厚生年金保険の加入事業所が厚生年金基金に加入
しますと、次のようなメリットがあります。

○国の厚生年金より、高い年金給付が受けら
れます。

○退職金の一部を事前に確保できます。

○基金掛金は損金扱いとなり、節税となりま
す。

○企業のイメージ・アップとなります。

厚生年金基金は、

○国の厚生年金の一部を代行して、国より厚い年金
を支給する、厚生労働大臣によって認可された公法
人です。

厚生年金基金への加入について、是非ご検討下さ
いますようお願い申し上げます。

ご照会、ご質問につきましては基金事務局（下記
連絡先）までご連絡くださるようお願い申し上げま
す。

連絡先

日本スポーツ用品厚生年金基金

担当 常務理事大岩昭雄

(住所) 東京都品川区西五反田2-19-3

TEL: 03-5487-2691

FAX: 03-5487-2765



和魂復活の願い

JSR顧問

安部純平

二千年は“金”

昨年暮、「今年一年を、一文字で表せばどんな字になるか」の発表があって、“金”ということになりました。

シドニーオリンピックで、日本としては、久々のゴールドラッシュに沸いたことと、朝鮮半島の二国が、握手をするという歴史的出来事の二人の主演が、金さんであったということが、その理由であると説明されました。

しかし、率直に言って、私は新聞でこの“金”を見たとき、“きん”ではなく、“かね”と読んでしまいました。

シドニーオリンピックでの高橋尚子さんの素晴らしい笑顔でのマラソンの“金”や、柔道の田村選手の誇らしげな“金”の笑顔は、私の記憶にも生々しいところですが、私の頭の中では、景気回復に暗い影を落した、そごうグループの倒産や、第百生命、大正、千代田、協栄といった四つの生命保険会社の破綻や、年の瀬も迫った二十九日の朝銀近畿の破綻というような暗い印象と、儲けのために、会社の信用を売ってしまった雪印乳業や三菱自動車といった企業犯罪、あるいは子供達のグループが、いじめで五千万円にのぼる金を脅しとっていたという、信じられないような事件が、つぎつぎと思い浮かんでしまったのです。

こんな風に直感的に誤認をしたというのは、私だけなのでしょうか。

ともあれ、二千年の“金”なる文字は、明と暗、光と影を持つただら文字のように私には思えました。

二千一年は“魂”

二十一世紀の始まる二千一年元旦は、私は氏神様へ初詣しました。

昔から一年の計は元旦にありと申しますので、二千一年を終ったときに、この一年を一字で表す

とすればどんな文字かと振り返るといような消極策ではなく、積極的に年の始めに、どんな一文字で表せる年にするかと目標を樹て、達成のために自分自身を叱咤激励しようと思ひ、氏神様に二千一年は“魂”でありたいと申告して参りました。

二十世紀、千九百一年は、明治三十四年から始まるのですが、明治の先輩達は、“和魂洋才”を唱えて、国づくりに懸命の働きをしました。

和魂洋才とは、日本の歴史と伝統を基盤に構築された日本文化を、しっかりと受け継ぎ、海外の知識や技術を日本の文化と調和させて吸収しているということであり、その努力は、世界の先進国も認めるところでありますが、世紀の半ば、第二次世界大戦に敗れて、挫折しました。

戦後、マッカーサー元帥が、日本を統治するようになって以来、知らぬ間に、私達は、“無魂洋才”になって、日本の歴史も、伝統も、文化も影が薄くなってしまいました。

それにつれて、次第に日本人の美風であった「勤勉」「誠実」が損なわれてしまったように思います。

また最近では、“洋魂洋才”が主流になってしまった様であります。

日本民族、日本国、という意識や誇りも薄れて、国歌や国旗に対する敬意や愛着もなく、まるで無国籍人間のような意識の人達が増えているように思われます。

政治家にしても、昨年末にあった茶番劇のようなことが多く、誰が本当に日本のことを考えて政事をしているのかと疑いたくなるような気が致します。

そんな思いから、何とか私達が力を合わせてこの様な状態を正さねばならない、その為この一年、“魂”すなわち、日本人の伝統的な心を取り戻さねばならない。

そんな一年にしたいと氏神様に申告したわけがあります。

事業委員会



委員長 谷 久人

事業委員会の報告、及び連絡を致します。

1つはJ S E C（国体総体）関係です。

昨年度は富山県（国体）岐阜県（総体）全九州（全中）の各大会が行なわれました。各県共組合員の皆様方一致団結の下、売店販売に活動され本当にお疲れ様でした。一番大きな目的はもちろん売上げですが、今一つの組合員の皆さん方の結束という大切な利点があると思います。

ここ数年の報告等を見聞しますと売店活動における組織のあり方、運営の仕方等よくぞここまでと何も申し上げる事がなく感銘致しています。

私（福岡県）も数年前経験しましたが国体総体の売店運営は大変な事です。しかし又組合員の結束と親睦はその後の組合活動に大きく生かされてきています。本年開催の宮城県（国体）熊本県（総体）中国（全中）の皆様方は準備に大変だとは思いますがよろしくお願い致します。

現在J S Rは協同組合とし活動しています。協同組合である以上事業を行わねばなりません。この事は各県共に同様だと思えます。

昨年度は事業の一つとして買物袋の販売を行いました。17県の方に協力いただき200セットの販売実績が上がりました。本年度は47都道府県すべての組合に協力お願いしたいと思っています。

出来る事ならば各県の事業の一つとして利用していただきたい。その様に思います。

J S Rとしても、又各県におかれましても常に考えている事は何が組合員のために、何が組合員のメリットになるかという事だと思えます。

私共事業委員会におきましては皆様方からの事業に対しこういう事をやってほしい。こういう事業は組合員の利益結束に結び付くという御意見を各県理事長を通じ聞かせて下さい。よろしくお願い致します。

広報委員会



副委員長 小関和夫

①国際

海外レポートに、先般世界会議で訪独した時の、総合型スポーツクラブと環境問題についてのレポートをしたが、先進地ドイツに謙虚に学んで参りたく思います。

②環境

大量生産、大量消費が美徳であるといわれ、現在の贅沢な暮らしを当然のこのように考え、その結果自然環境の大量破壊、深刻な地球温暖化問題を引き起こしているわけですが、21世紀にはどうこれを克服するかが人類にとって最も大切な課題といえよう。1997年の京都会議で決まった議定書、即ちCO₂の削減を1990年を基準として日本が6%、米国が7%、EUが8%の目標が全くクリアされておらず、先日のハーグ会議でも話し合いが決裂したとのニュースに、相も変らぬ自国中心、経済優先の考え方には恐ろしささえ覚えてならない。

しかし今や環境問題を抜きにしてはどんな企業も組織も立ち行かない時代であることは論を待たない。ドイツのタクシードライバーから得た教訓を忘れることなく、わがJ S Rはまず進んでアイドリングストップ運動を始め、出来ることから実践してまいろうではありませんか。

③広報

わが委員会のニューメンバー福岡県の竹原理事長に、福岡県組合の情報誌“つながり”に就いて紹介して頂きました。

新世紀をむかえ、J S Rの行くべき方向、なすべき問題等につきりポートを通して広く組合員の皆様のご意見を集約して参りたく考えていますので、進んでご投稿下さいますようお願い致します。

I T 委員会



理事長 上田善重

明けましておめでとうございます。POS委員の皆様の大変なご奮闘をいただき、いよいよ成果物が2月早々にできあがる段取りになりました。皆様方に厚く御礼を申し上げます。平成13年度の実証実験計画書を中央会に提出しており、予算が降りれば本格的な段階に入る訳で成果が見えるのでますます気合が入るのではないのでしょうか。期待をしておる次第であります。

さて、景気は一部の産業ではよくなりつつありますが、スポーツ業界は小子化、学校体育の移行や若者のスポーツ離れ等、これからも落ち込んで行くと見込まれ、後3～4年ははっきりとしない状態が続くものと思われまます。その理由を挙げますと(1)91年のバブル崩壊以降、日本経済は10年を経過しましたが、その間政府は破綻した金融機関や証券会社を救済したり公共事業で失業者を救ったものの、国全体としてはなんら本質的な構造改革を進めないまま、膨大な国の借金が増えただけで、それが年金や介護資金を圧迫し、増税幅を高めなくてはならない負の圧力を高めているのであり、こうした将来的な不安は、これからも当分引きずることになり、消費意欲をそぐことにつながっている。(2)ネット社会は、社会全体の合理化を進めることになり、組織や流通の中間を省き、時間や物理的距離を無くすことになる。結果として、人もオフィスもコストも減らされ、一部収入が増える人もあるが、多くの人は収入も減り、失業者も増える。(3)世界経済の一元化は、途上国からの低価格商品の輸入拡大につながり、90年代末の低価格競争は収まらず、利益につながらない。(4)スポーツやファッションヘショッピングパワーは、確実に低下するだろうと思われています。若いひとの失業率が増え、フリーターの時給も下がり続けるなど、可処分所得が減って来ている。また、ヤングの人口減少もその理由である。いづれにしてもこのままの延長線上ではだめだということで、まさしくパラダイム・チェンジを目指し、原点に戻るのだと思います。それと同時に私がいつも云っている『見える経営』毎日毎日の経営状態が数字で見えなければ、これからの経営は困難になると思われまます。たとえ外商だけの商売でもPOSを導入し、効率を上げる事と省力化は避けて通れないと思われまます。

総務委員会



委員長 石井憲孝

日本スポーツ券(株) 営業に関する近況報告
(平成12年12月末 現在)

1. スポーツ券月別売券枚数

月度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	前年比
上期計	344,825	243,075	294,750	121.3
12月累計	495,825	437,625	487,300	111.4
下期計	313,950	330,425		0.0
年間計	658,775	573,500		0.0

(経過) 4月～5月の入進学、シーズンイン購買が前年比63%と落込み先行きが心配されたが各加盟店の各県官公庁や企業の大口受注促進、店頭での販売も促進されたことやメーカー、卸各社のキャンペーン及び記念行事等自社内消費の促進などで前年111%で推移しました。昨年度の大幅な落込みから宣伝費カットを余儀なくされましたが各社の新聞広告内の帯広告、ホームページへの紹介広告掲載など露出の減少分をカバーしていただき、販売促進に繋がっております。年間見込みは平成10年までは無理にしても最低62万は達成したい。

(インターネット関係)

- ・ネット通販ギフトケンドットコムに加盟、スポーツ券販売開始
- ・マイポイントドットコム スポーツ券がインセンティブパートナーに登録された。
いづれも経費ほかりスなく紹介HPページあり広告の効果あり販売促進されよう。
- ・自社ホームページ 加盟店検索、できるHP来春開設検討中

2. 加盟店及び取扱店の状況

12月末現在、加盟店と支店の取扱総計は3,825店、本年期首比で394店の増加になっています。

但し加盟店の廃業・倒産での退会が38社あり新規加盟29社、本年期首比で9社減の2,249社になっています。

3. 今後の課題

ゴルフ場・練習場の加盟促進、スポーツ施設など取扱いも今後の課題。スポーツショップ・ゴルフショップの未加入店の加盟促進。

4. その他

スポーツ券創立10周年に付き事務局でセールスキャンペーン実施すべく検討中。

関東甲信越ブロック



関東甲信越ブロック会長

石井 憲 孝

東京都スポーツ用品専門店協同組合理事長
J S R 副理事長 (株)石井運動具店社長

10月4日にブロック総会を甲府で開催したが、その報告を中心にして紹介いたします。

(1) 新役員

会 長 石井憲孝
副会長 町田宏遠 武田孝一
会 計 天沼教作 小寺正夫

(2) 経営フォーラム

下記の項目から一つ選び、各県の組合が実行された事業、これから取り組みたい事業等を率直に各県の理事長より発言していただき、21世紀に組合の方向を示す糧になることを願うものです。

- ①共同購買事業 ②共同受注事業
- ③販売促進事業 ④情報提供事業
- ⑤福利厚生事業 ⑥その他の事業

1. 千葉県運動具商組合 武田孝一理事長

共同受注事業

それぞれのお店は、個々で経営されているが、千葉県内の大きなイベントでは、組合が主体となって取り組み、質量とも大きくしたい。それには組合員の理解を得ることが大前提だが、努力してみたい。

2. 神奈川県運動具商協同組合

事業部長 手嶋敦彦

共同購買事業 (実行した事業)

事業部 一般事業担当 (一般物品)

スポーツパウダー、紙袋、トレーニング用品、タオル、ウインドブレーカー、チューンナップほか

保険担当事業 (損害保険) 自動車保険、見舞金費用保険、火災保険、傷害保険、自動車賠償責任保険、各種大会保険、所得補償保険

(生命保険) 個人契約、法人契約

(P L 保険) 組合で加入

福利厚生事業 (今後取り組みたい事業)

今こそ必要な親睦と融和

3. 埼玉県スポーツ用品小売商業協同組合

専務理事 関根光葵

共同購買事業 ラインパウダーその他

情報提供事業 その都度対応

福利厚生事業 新年会、ゴルフコンペ、工場視察等

4. 東京スポーツ用品専門店協同組合

理事長 石井憲孝

情報提供事業 メーカー卸との懇談会

福利厚生事業 神宮外苑花火大会で家族、従業員の慰安会を開催

5. 群馬県運動具商協同組合

小林累照

特になし

6. 山梨県スポーツ専門店協同組合

理事長 神山利秋

共同購買事業 ラインパウダー、ボール類

共同受注事業 ハンド、バスケ、サッカーボール

7. 栃木県運動具商協同組合

理事長 阿部捷也

共同購買事業 石灰

情報提供事業 「聞きかじり情報」米国のファッション、スポーツに関する情報を提供 (現在No.21号)

販売促進事業 健康祭り、陸上関東選手権等に
出展販売

福利厚生事業 工場視察、ゴルフコンペ

8. 茨城県運動具小売商組合 理事長 藤崎泰助

その他の事業 青年部の新設による活動と事業

9. 新潟県スポーツ用品専門店組合

直前理事長 佐藤豊一郎

実行した事業 県小学生バレーボール連盟より各学校のボールを一括受注

今後の事業 県内における大きな大会に売店を出し、その収益を組合員に還元したい。

10. 長野県運動用品専門店協同組合

理事長 竹内資安

当日は欠席されました。

橋本 隆

J S R 顧問
前全運小連理事長
(株)ハシモトスポーツ代表取締役社長

(1) スポーツ店の創業

学生時代から行きつけのスポーツ店で手伝ううちに店員となり、5年後昭和33年3月に26歳で独立してハシモトスポーツを創業。現在、長男（専務）奥様（常務）を中心スタッフとして小松市を中心に展開中。近年の大型店攻勢により必然的に学校のクラブや競技者中心の店作りをしているが、専務が市野球協会の理事長をしていることもあり特に野球用品には力をいれている。

(2) 組合活動

昭和34年に県の組合結成と同時に参加。50年に理事、56年から平成7年まで15年間理事長を務める。その間中部ブロック協議会の会長、全運小連の副理事長、理事長、副会長、現在はJ S Rの顧問を抑せつかっている。

全運小連理事長の時には、連合会事務局のあり方、組織の運営、会議の持ち方、予算決算の書き方等の改善に努めました。また「数は力なり」と申しますが、組合員の増強にも努め、年間に前年より10%以上アップ出来た県を表彰することにしました。「不運なことに、折からの不況により組合員の廃業等が相次ぎ、結果として増強することの難しさを実感しました。」

(3) 社会活動

①スポーツ関係

ハンドボール協会、早朝野球協会の理事長、会長を歴任。

②青年会議所

昭和46年、小松青年会議所の理事長に就任し、「アジアの繁栄と平和のため、アジア人としての連帯を確立しよう」のスローガンのもと、18名のメンバーと、現総理である森喜朗衆議院議員と台湾を親善訪問。台湾立法院議長の直々の案内、心温まる歓待には大いに感激したもので

す。

③商工会議所

20年間常議員を勤め、その間商工振興、流通対策、観光文化の各委員長を歴任。最近では県内の経済歴史文化などの関係者でつくる「NHK大河ドラマ誘致研究会」の中心委員としても活躍し、平成14年に、加賀百万石物語「前田利家とまつ」を放映されることが正式に決定。地元石川県のみならず富山、福井の両県を巻き込んでのそのPR効果、経済効果ははかりしれないとのことである。

④ライオンズクラブ

平成3年小松中央ライオンズクラブ会長、9年に国際協会334-D地区4R-1Zゾーンチェアマンを歴任。



(4) 商売の信条

私は地域社会に尽くすことはわが社の発展にもつながるという信念で、これまでいろんな地域団体への奉仕ができたことを幸せに思っています。会社を大きくすることだけが社会貢献だとは思っていません。たとえ小さくとも地域になくならない店、地域の人々から愛される店作りを志向しています。

私は商業界講師、故新保民八氏の次の言葉を商売の信条としています。

「正しきに依りて、減ぶる店があらば減びるもよし、断じて減びず」

氏の素晴らしいキャリアの陰には、奥様のかかれた内助の功があったればこそと思います。氏が全運小連理事長時代に総会のパーティーで、奥様と颯爽とダンスをなされている仲睦まじいお姿が昨日のこのように思い出されます。（K.K）

妄言多謝

“JSRレポート”と“つながり”

広報委員会 副委員長
竹原和彦

「つながり」という言葉を、私は以前から好きである。“社会とのつながり”“客や学校とのつながり”“メーカーや卸とのつながり”“友人や近所とのつながり”“親戚や家族とのつながり”等という風に、我々は、いろんな面で、たくさんの人達との「つながり」を、持っている。こうした人間関係の事を「つながり」というだけで、認め合い尊重し合っの結びつきという風に思えてくるからである。

同じ事を考えたり、同じ様な問題で、悩んでいる同業者同志の理解し合える仲としての間柄という事から、福井県の組合では広報紙の名前を「つながり」として、昭和61年5月に、その第1号を発行し、現在まで45号を重ねてきた。全国的に見ても、組合のニュースが余りなかった時であったが、単に総会や理事会での決め事を、報告する事で全員の組合員に、それを徹底出来たらという簡単な気持ちからの出発であった。しかし回を重ねる毎に、組合の方向や、その時の状況への疑問を問いかけたり、メーカー、卸への小売店の立場からの希望も、主張する様になった。

しかし、一番心がけた事は、「士気をたかめ意欲につなげる」という事で、とかく問題がある度に、自分自身もそうであったが、駄目な理由ばかり考えてしまって、弱気になりがちであったが、「負けないで、とにかく元気を出して頑張ろう！」と連帯意識を強調し、支え合える仲間であると思いで「我々は共に考えよう！」と、主張を続けてきた。そして、総会等で、組合費の中からのいろんな意見やヒントが出た時、それらを何とか集約して「組合の声」として、代弁出来る様な役割が果たせないものかと、思い続けてきた。時に、この「つながり」が、業界紙に取り上げられたり

メーカーや卸の方にも読まれる事もあって、この手書きの一枚を通して小さな県の小さい組合でありながらも、他の方にも「何かをやっているみたい」という風に分かってもらえる存在になってきたのではないかなと思う。知らせなければ分かり合えないもので、コミュニケーションを深め知らせ合うことで、これからも「つながり」の強化をはかって理解を深めて行きたいと思っている。

さて、平成8年、この「つながり」の理解者である辻本理事長になって「組合員全員に開かれた『JSR』にしたい」という気持ちの表れが、機関紙“JSRレポート”の発刊となった。そして総会や理事会・委員会等での報告をする事で、「組合員意識の統一と高揚をはかり、合わせて組合活性化に役立たせたい」という思いから、この業界に対しては、大変な努力をされてきた。元来組合員と役員との間にあって、お互いの意志伝達がスムーズに行われて、はじめて組織としての目的が達成されるはずである。そのためには、まず第一に理事長や理事会の理念や方向を明確にして、JSRとしての決定事項を通知し、理解を求める必要がある。次に、各県の組合や組合員の考えを、大きくくみ取る努力を忘れてはならないという事ではないだろうか…。

そして、将来への展望が困難である程、刺激を与え合い“挑戦気運”を高めて、意欲の向上に努め、元気づける役割も果たせないものだろうか…。そうした思いで、今回小関委員長の下、国際・環境・広報委員会の一員として、何かお手伝が出来ないものかと思っている。今後、この“JSRレポート”の広報紙としての役割は、ますます大きなものがあると思うと、非常に責任の重さを感じる。新しい年にあたり、この“JSRレポート”がメリットを産み出すための何かヒントになり、更に全国の組合員同志の「大きなつながり」にならないものかと、正月らしい夢を見ている。“ものごとを書くだけならば、誰も書く…

読ましむるために、いかに書くべき…”

海外レポート

小 関 和 夫

去る8月初めに世界会議に出席のために訪独した折、ミュンヘンにて総合型スポーツクラブと環境問題についての視察をしたのでレポート致します。

(1) 総合型スポーツクラブ

ご存知のように、ヨーロッパ諸国ではスポーツは日常の生活に溶け込んでおり、各地域にある総合型スポーツクラブに入会してスポーツを楽しむのみならず、そのクラブハウスを地域コミュニティの基盤として、交流の場としても大いに利用しておられる。

特にドイツでは、そうしたクラブの数が8万以上もあり、その会員数は人口の30%の2400万人もいるといわれているので、各家族の少なくとも一人以上の方がクラブに通っていることになる。

FCバイエルン

創 業：1900年2月27日

会員数：80,000人

種 目：サッカー（プロ、アマチュア、少年、
婦人、審判）

バスケットボール、ハンドボール、
卓球、体操、チェス

売店では、プロチームのユニホーム等のサッカー用品が売られており、展示コーナーにはプロチームの優勝トロフィーをはじめ数々の戦歴を物語る記念品が所狭しと飾られていた。

日本のJリーグが、欧州のスポーツクラブを「潤いのあるスポーツ文化」と称して目標にしているのもむべなるかなとの印象を強く受けました。

当日は創業100周年のフェスティバル中ということで、練習光景を見ることは出来なかったが、クラブのレストランで団欒していた人たちと懇談することができた。

① スイスから来た家族（ご夫妻と3人の子供）
彼等はスイスに居ながらミュンヘンのFCバイエルンに入会して、週末や夏休み等に来られる由。

クラブには資格をとった指導者がいつもいて、子供たちにはまずスポーツの楽しさを教えてくれる。指導者は相手が子供でも人格を尊重してくれており、非常に親切だということであ

ざわざスイスから喜んで参加しているという。楽しくやっているうちに更にうまくなりたいという欲が出てくるし、能力がある子供はナショナルトレーニングセンターで指導を受けることもできる。また会員の特権として、試合のチケットが安く入手出来るのも魅力のひとつだという。因みに、去る11月にスイスから電話をかけてきて、2002年に日本で開催されるワールドサッカーのチケットを30枚取って欲しいと言ってきたことからそのサッカー好きが推察できる。



スイスの家族との懇談

② 91才の男子、もうサッカーは出来ないがクラブに日参してサッカーを見るのがたのしみ。彼の会員番号は1952年に取得したもので、198番が誇りだといって見せて下さった。

③ 78才のスイス生まれの男子。サッカー大好き。今もやっている。はつらつとしていてもお年には見えない。年会費は年金生活者は、50ドイツマルク（約3500円）その他は、100ドイツマルクだとのこと。

このような元気な年配の方々と話していると、体を動かすことが生活の一部となっており、スポーツは生きていく上でなくてはならないものであることがよく理解できる。

広大な敷地の鮮やかなグリーンが目につまでも焼きついて忘れられません。

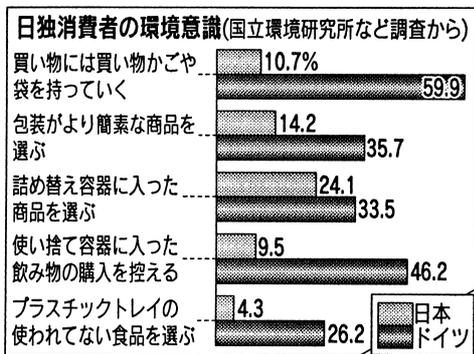
(2) 環境問題

ミュンヘンの街を歩いていると、500mごとに大きなコンテナが置いてある。そこで透明、褐色、緑の色別に使い捨てのガラス瓶が回収される。また所々に6つのコンテナがあり、プラスチック、缶、紙と3種類のガラスが分別される。住宅街では、家の軒先や庭先に紙類、生ごみなどの分別容器が置かれており、リサイクル可能な紙類、包装材料、コンポスト（たい肥）用の生ゴミは無料で、その他の雑ごみは有料で回収される。



コンテナ（6個）

店で買い物した人が、買ったばかりの包装を、店頭で置かれた分別用コンテナに捨てている光景をよく見かける。ごみ回収の料金が従量制なので、雑ごみは家に持ち帰りたい客が多く居るのです。そして商品の包装が極めて簡素化されているのが目に付きましたし、詰め替え容器に入った商品を選ぶ人も多いように感じました。



日独消費者の環境意識

ごみを減らすためには、“3つのR”が大切だといわれる。Reduce（減らす）、Recycle（原材料として再利用）、Reuse（何回も繰り返し使う）で、ドイツでは、空き瓶や空き缶、プラスチックなどすべての容器や包装材をメーカーや販売業者が回収して再資源化しなければならないという内容の政令が定められている。会議室の卓上に並ぶ飲み

物は今でもガラス瓶のものを使用しているが、これは瓶の容器をリユースできるし、そのほうがごみの減量にも、資源の節約にもつながるということで実施されているのである。

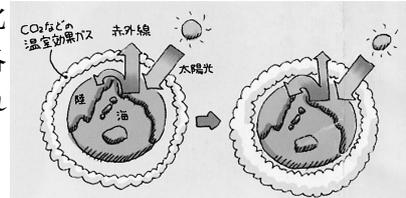
ドイツではこのように、資源を節約し、リサイクルする循環型社会を目指してさまざまな配慮をしているのです。

石油は40年後にはなくなってしまうといわれているが、日本ではそのことをあまり深刻に話す人は居ない。ドイツ国民は生活は質素であるといわれているが、例えば風呂を沸かすのは週に1回だけで、あとはシャワーで間に合わせていると言う。そして日本人の毎日の入浴は贅沢であり、水の使いすぎ、燃料の使いすぎだと真剣な顔で言うのです。

今、地球は深刻な温暖化問題に直面しています。アイドリングストップ運動については、ミュンヘンのタクシー運転手の姿を教訓として、わが業界でもその意識の改革に努めているわけですが、ドイツ国民は環境教育を幼児期から始めているといわれているが、日本でも環境問題についての学校教育の徹底が急務であると痛感した次第です。

深刻な地球の温暖化。今後100年間で平均気温が約2度上昇すると予測されています。

地球温暖化とは、温室効果によって平均気温が上がり、気候変動が起こる現象をいいます。1万年前の氷河期と現在の平均気温の差は3～4度Cであり、2度C上昇すれば地球の大変動となります。海面上昇や自然生態系の変化などが予測され、これ以上の温暖化を阻止するため各国で対策が練られています。



編集後記

山形県の小さな農業の町、立川町は“清川ダシ”という強風に悩まされてきたが、最近クリーンな風力発電で町のすべての電力を供給しようという挑戦を続けている。風車は9基。嫌われ者がヒーローになったシンボルである。

わが業界も、大型店の価格志向という逆風に悩まされているわけですが、今こそ長年培ってきたプロフェッショナルなノウハウと、顧客本位の誠

実な対応で、安売りという逆風を順風に変えるための知恵を結集しなければなりません。JSRレポートで、そんな情報や体験等をお伝え出来ることを願っています。

わが業界にとって、幸せ多き新世紀であれかしとご祈念申し上げます。（K.K）



デンマーク製。高さ46メートル